

♪ 研修会参加記 ♪



研修会に参加して

野口 通世

研修会に参加するのは2回目です。前回(第5回)は、図書室の利用対象者が院内職員から入院患者さんへ地域医療従事者へと拡大しつつあること、図書室が情報提供の発信源になっていること等、図書室の役割の変化にビックリしました。そしてこのままでは時代の流れに取り残されてしまうと危機感をもったことを覚えています。

図書室に配属されてから2年になります。業務の改善も少しずつ行ってきました。昨年6月から始めた文献複写サービスは、今では業務の中心的な位置にあります。日赤図書室協議会に入会し、たくさんの方々に教えていただきながらここまでできました。

今回の研修会での基礎講座「初心者のためのPubMed講座」は、実際に行っている文献検索の上級編で大変よかったです。当院は先生方が自分で検索するので詳しく知らなくても特に困ることはありませんでしたが、これほど多くの機能を使って検索していることに感心するばかりでした。勉強して先生方の役に立ちたいと思っています。

「患者への医学情報提供」では、患者図書室の必要性を痛感しました。当院は地域医療支援病院であり、入院患者さんだけでなく地域住民の方々への情報提供、図書やITの開放がこれからの図書室の役目だと考えています。

事例報告は、それぞれの図書室でみんながし

っかり前向きに活動している報告であり、仲間として一緒に進んで行こうという姿勢がとても励みになりました。私もこれまで「利用してもらう図書室」にするために努力してきたつもりですが、まだまだ出来ることはたくさんあると元気をもらいました。

公開講座では、各病院図書室で、また各分野で先頭にたって仕事をしている方々の講演でした。どの講演も私たちの目指すものであり、図書室担当者に一番必要なことは医療情報の専門職としてもっと知識と技術を身に付けることであると教えていただきました。虎ノ門病院の熊谷さんや星ヶ丘病院の首藤さんの講演では、図書館員としての仕事に対する姿勢や生き方そのものに感銘を受けました。

患者さんが自分の病態を知るために自分で調べる、その手伝いをするための図書室が現れてきました。入院患者さんだけでなく、地域住民にまで医療の情報提供(専門書の提供)を行う時代になっています。図書室はその最新情報の発信源として、その時々社会の動きに応じた的確な情報を収集し、選択し発信していかなければなりません。これからは専門職としての技術と知識が必要な時代です。情報を提供するものは、情報を受けるものよりもっと学ばなければいけない、これを常に頭に置いて日々努力していきたいと思います。

この研修会で得た知識や技術、人とのつながりを最大限に生かし、21世紀に望まれる図書室を目指して精一杯取り組んでいきたいと思っています。

NOGUCHI Michiyo

徳島赤十字病院

noguchi@tokushima-med.jrc.or.jp